

令和4年度
山形県立保健医療大学 保健医療学部
一般選抜（前期日程）

総合問題

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子の中を見てはいけません。
2. 問題は6ページ、解答用紙は3枚、下書き用紙は2枚です。
試験開始の合図とともに、直ちに問題冊子、解答用紙を点検し、印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および汚れ等があったら、手を挙げて監督者に知らせてください。
ただし、問題の内容や解答の仕方についての質問は受け付けません。
3. 監督者の指示に従って、解答用紙のすべてに受験番号・氏名を記入してください。
4. 解答は、解答用紙の解答欄に記入してください。
5. 解答用紙の※欄に記入してはいけません。
6. 解答用紙（ホッチキス止め）を切り離してはいけません。
7. 問題冊子の余白等は適宜利用してもかまいません。
8. 試験中は監督者に許可なく自席を離れたり、私語や談笑をしてはいけません。
9. 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰ってください。

1

次の文章は、イングランドでアイルランド人の夫、ふたりの間の息子との3人で暮らす日本人である著者が、息子の中学校の授業（シティズンシップ・エデュケーション）の試験問題、「エンパシーとは何か」について語る場面である。この文章を読んで以下の問いに答えなさい。

「エンパシーって、すごくタイムリーで、いい質問だね。いま、英国に住んでいる人たちにとって、いや世界中の人たちにとって、それは切実に大切な問題になってきていると思うから」

「うん。シティズンシップ・エデュケーションの先生もそう言った」

と、ちょっと誇らしげに顎をあげてから息子は続けた。

「EU 離脱や、テロリズムの問題や、世界中で起きているいろんな混乱を僕らが乗り越えていくには、自分とは違う立場の人々や、自分と違う意見を持つ人々の気持ちを想像してみるのが大事なんだって。つまり、他人の靴を履いてみることに。これからは『エンパシーの時代』って先生がホワイトボードにでっかく書いたから、これは試験に出るなってピンと来た」

エンパシーと混同されがちな言葉にシンパシーがある。

両者の違いは子どもや英語学習中の外国人が重点的に教わるポイントだが、オックスフォード英英辞典のサイト (oxfordlearnersdictionaries.com) によれば、シンパシー (sympathy) は「1. 誰かをかわいそうだと思う感情、誰かの問題を理解して気にかけていることを示すこと」「2. ある考え、理念、組織などへの支持や同意を示す行為」「3. 同じような意見や関心を持っている人々の中の友情や理解」と書かれている。一方、エンパシー (empathy) は、「他人の感情や経験などを理解する能力」とシンプルに書かれている。つまり、シンパシーのほうは「感情や行為や理解」なのだが、エンパシーのほうは「能力」なのである。前者はふつうに同情したり、共感したりすることのようだが、後者はどうもそうではなさそうである。

ケンブリッジ英英辞典のサイト (dictionary.cambridge.org) に行くと、エンパシーの意味は「自分がその人の立場だったらどうだろうと想像することによって誰かの感情や経験を分かち合う能力」と書かれている。

ブレイディみかこ。『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』（新潮社、2019、pp.74-75）より一部改変

問1 解決することが非常に困難であるとあなたが日頃感じている問題の中から

(1) エンパシーが重要であると考える問題を1つあげなさい。

(2) それはどのような問題なのか、具体的に説明しなさい。

問2 問1であげた問題に取り組む際に、なぜエンパシーが重要であるのか、350字以内で説明しなさい。

2

厚生労働省は、「地域共生社会」を目指す背景を次のように説明しています。次の文章を読み以下の問いに答えなさい。

かつて我が国では、地域の相互扶助や家族同士の助け合いなど、地域・家庭・職場といった人々の生活の様々な場面において、支え合いの機能が存在しました。社会保障制度は、これまで、社会の様々な変化が生じる過程において、地域や家庭が果たしてきた役割の一部を代替する必要性が高まったことに対応して、高齢者、障がい者、子どもなどの対象者ごとに、また、生活に必要な機能ごとに、公的支援制度の整備と公的支援の充実が図られ、人々の暮らしを支えてきています。

しかし、我が国では、高齢化や人口減少が進み、地域・家庭・職場という人々の生活領域における支え合いの基盤が弱まってきています。暮らしにおける人と人とのつながりが弱まる中、これを再構築することで、人生における様々な困難に直面した場合でも、誰もが役割を持ち、お互いが配慮し存在を認め合い、そして時に支え合うことで、孤立せずにその人らしい生活を送ることができるような社会としていくことが求められています。

また、人口減少の波は、多くの地域社会で社会経済の担い手の減少を招き、それを背景に、耕作放棄地や、空き家、商店街の空き店舗など、様々な課題が顕在化しています。地域社会の存続への危機感が生まれる中、人口減少を乗り越えていく上で、社会保障や産業などの領域を超えてつながり、地域社会全体を支えていくことが、これまでも増して重要となっています。

さらに、対象者別・機能別に整備された公的支援についても、昨今、様々な分野の課題が絡み合って複雑化したり、個人や世帯単位で複数分野の課題を抱え、複合的な支援を必要とするといった状況がみられ、対応が困難なケースが浮き彫りとなっています。

「地域共生社会」とは、このような社会構造の変化や人々の暮らしの変化を踏まえ、制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会を目指すものです。

(厚生労働省ホームページ <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000184346.html> より一部改変)

問1 地域共生社会を目指さなければならない必要性を150字以内で説明しなさい。

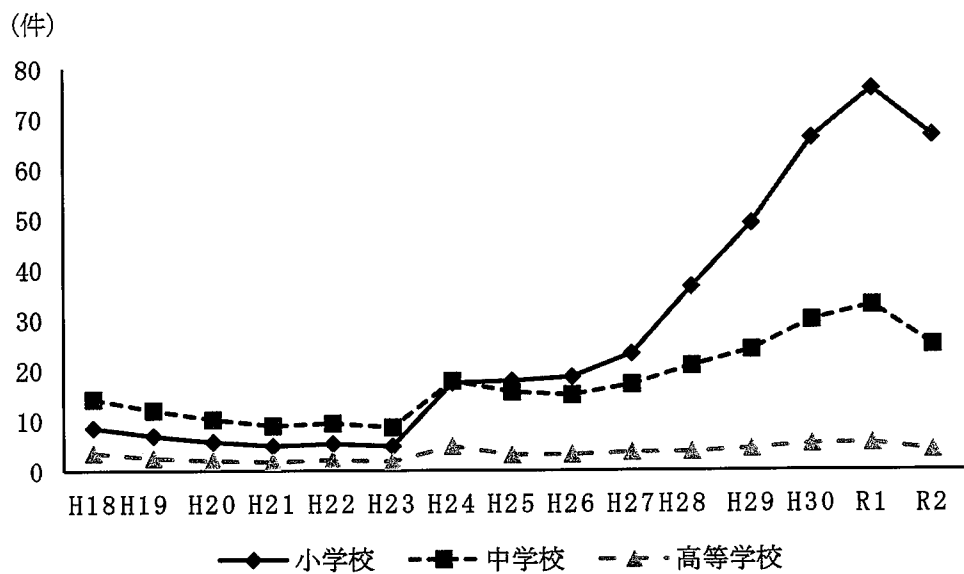
問2 障がい者が暮らしやすい地域共生社会になるために、どのような支援があれば良いか、あなたの提案を1つ挙げて、その理由と内容を350字以内で説明しなさい。

3

資料1は小・中・高等学校におけるいじめの認知率の推移を示している。資料2は小・中学校における不登校児童生徒数の推移を示している。次の問いに答えなさい。

問1 資料1および資料2が示している状況を簡潔に150字以内で説明しなさい。

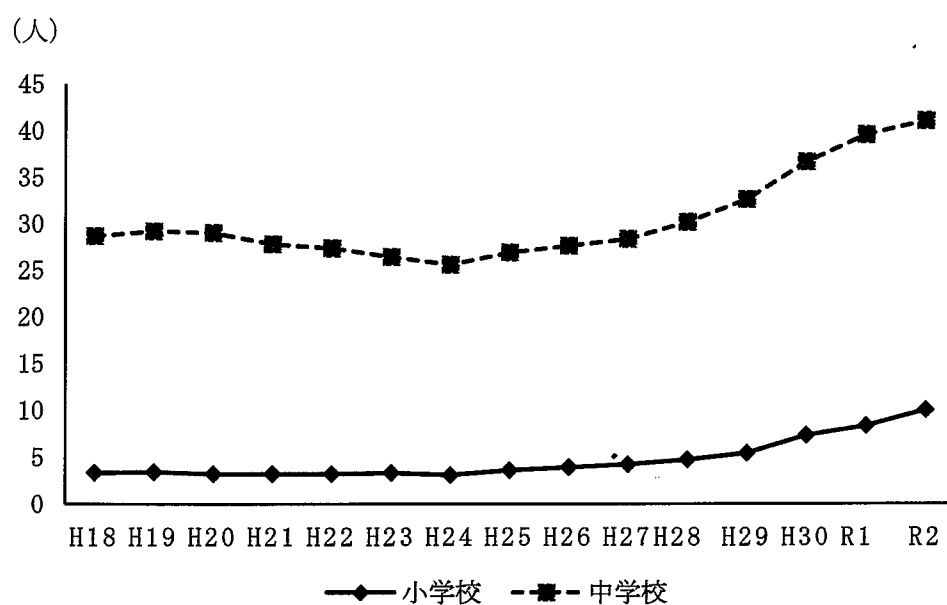
問2 問1で説明した状況がなぜ起きているのか、新型コロナウイルス感染症による学校の行動様式、生活環境の変化から、二つの状況を関連付けてあなたの考えを具体的に400字以内で説明しなさい。



資料1 いじめの認知率の推移 (1,000人当たりの認知件数)

出典 文部科学省ホームページより (一部改変)

(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1302902.htm)



資料2 不登校児童生徒数の推移 (1,000人当たりの不登校児童生徒数)

出典 文部科学省ホームページより (一部改変)

(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1302902.htm)